

平成30年度事業報告書

学校法人 二松学舎

目 次

I	法人の概要	1
II	事業の概要	5
III	財務の概要	20
	監査報告書	27

I. 法人の概要

1. 沿革

二松学舎は、明治 10 年に先師中洲三島毅により「漢学塾二松学舎」として創設され、建学の精神「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成スル」により東洋学の確立と新時代を担う国家有為の人材の育成を目指した。その後、昭和 3 年には旧制専門学校となり、国語・漢文の教員養成に注力し、「国漢の二松学舎」として東洋の精神文化を基盤とし、人間教育の実践に努めてきた。戦後復興期、昭和 24 年に新制大学に移行、文学部国文学科・中国文学科の単科大学として伝統を堅持し発展、さらに平成 3 年に国際政治経済学部を開設した。一方、昭和 23 年に二松学舎大学附属高等学校が、昭和 44 年に二松学舎大学附属沼南高等学校(現附属柏高等学校)が設置され、平成 23 年 4 月、附属沼南高等学校は附属柏高等学校に校名を変更し、新たに二松学舎大学附属柏中学校を開校した。平成 24 年 10 月に創立 135 周年を迎え、これを機に、二松学舎のあるべき将来像を定めた「長期ビジョン(N'2020 Plan)」を公表し、これに基づく行動計画である「アクションプラン」を計画し、平成 25 年度より推進している。さらに、二松学舎創立 140 周年を機に新長期ビジョン「N'2030 Plan」を策定し 2030 年に向けた本法人全体の指針として公表した。現在、設置する学校と学部・学科等の概要は以下のとおりである。

2. 所在地

学校法人二松学舎

102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

(1) 二松学舎大学

九段キャンパス

102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

柏キャンパス

277-8585 千葉県柏市大井2590番地

(2) 二松学舎大学附属高等学校

102-0074 東京都千代田区九段南2丁目1番32号

(3) 二松学舎大学附属柏高等学校

277-0902 千葉県柏市大井2590番地

(4) 二松学舎大学附属柏中学校

277-0902 千葉県柏市大井2590番地

3. 設置する学校・学部・学科等

(1) 二松学舎大学

大学院

文学研究科

国際政治経済学研究科

文学部

国文学科

中国文学科

都市文化デザイン学科

国際政治経済学部

国際政治経済学科

国際経営学科

(2) 二松学舎大学附属高等学校

(3) 二松学舎大学附属柏高等学校

(4) 二松学舎大学附属柏中学校

4. 入学定員・学生数等の状況

<大学院>

(単位:人)

研究科	専攻	博士前期課程(修士課程)			博士後期課程(博士課程)		
		入学定員	収容定員	学生数	入学定員	収容定員	学生数
文学研究科	国文学専攻	16	32	16	5	15	13
	中国学専攻	16	32	16	5	15	4
	計	32	64	32	10	30	17
国際政治経済学研究科	国際政治経済学専攻	10	20	7	—	—	—
合計		42	84	39	10	30	17

<学部>

(単位:人)

学部	学科	入学定員	収容定員	学生数
文学部	国文学科	300	1,080	1,306
	中国文学科	90	460	538
	都市文化デザイン学科	50	100	113
	計	440	1,640	1,957
国際政治経済学部	国際政治経済学科	160	760	904
	国際経営学科	80	80	102
	計	240	840	1,006
合計		680	2,480	2,963

<中学校・高等学校>

(単位:人)

学校名	学科	入学定員	収容定員	生徒数
二松学舎大学附属高等学校	全日制普通科	300	900	924
二松学舎大学附属柏高等学校	全日制普通科	280	840	960
二松学舎大学附属柏中学校	全日制普通科	102	306	171
合計		682	2,046	2,055

(注)人数は平成30年5月1日現在の値を示す。

5. 役員等・教職員の概要

(1) 役員等・教職員数

- ①役員等 理事 11人 (うち、理事長1人、常任理事3人)
 監事 2人
 評議員 24人 (理事を含む)

②教職員

(単位:人)

教員	二松学舎大学	77
	二松学舎大学附属高等学校	39
	二松学舎大学附属柏高等学校	44
	二松学舎大学附属柏中学校	15
	計	175
職員	二松学舎大学	76
	二松学舎大学附属高等学校	7
	二松学舎大学附属柏高等学校	5
	二松学舎大学附属柏中学校	
	計	88

(注)人数は平成30年5月1日現在の値を示す。

表中の教員には非常勤教員を含まない。非常勤教員の人数は、二松学舎大学 194 人、二松学舎大学附属高等学校 23 人、二松学舎大学附属柏高等学校 34 人、二松学舎大学附属柏中学校 1 人である。

(2) 役員

役 職	氏 名
理 事 長	水 戸 英 則
常 任 理 事	五 十 嵐 清
常 任 理 事	西 畑 一 哉
常 任 理 事	菅 原 淳 子
理 事	本 城 学
理 事	芝 田 周 一
理 事	江 藤 茂 博
理 事	中 山 政 義
理 事	小 町 邦 明
理 事	野 口 誠 之
理 事	大 野 信 行
監 事	溝 田 泰 夫
監 事	根 本 義 尚

(3) 評議員

氏 名	
菅 原 淳 子	小 林 公 雄
本 城 学	七 五 三 和 男
芝 田 周 一	齊 藤 定 市
山 崎 正 伸	五 十 嵐 清
江 藤 茂 博	小 町 邦 明
中 山 政 義	水 戸 英 則
真 瀬 垣 成 隆	野 口 誠 之
島 田 達 彦	大 野 信 行
高 林 由 美 子	小 出 秀 文
高 柳 幸 雄	西 畑 一 哉
菅 原 義 博	渋 澤 健
廣 田 克 己	野 島 透

(注)平成 30 年 5 月 1 日現在

(4) 大学・両附属高等学校の主要役職者

役 職	氏 名
二松学舎大学	
学 長	菅 原 淳 子
副学長	高 野 和 基
副学長	磯 水 絵
大学院文学研究科長	江 藤 茂 博
大学院国際政治経済学研究科長	中 山 政 義
文学部長	江 藤 茂 博
国際政治経済学部長	中 山 政 義
附属図書館長	土 屋 茂
国際交流センター長	塩 田 今 日 子
情報センター長	瀧 田 浩
教職支援センター長	若 井 田 正 文
キャリアセンター長	佐 藤 晋
東アジア学術総合研究所長	牧 角 悦 子
学務局長	瀧 田 浩
二松学舎大学附属高等学校	
校 長	本 城 学
副校長兼教頭	真 瀬 垣 成 隆
二松学舎大学附属柏高等学校	
校 長	芝 田 周 一
副校長兼教頭	七 五 三 和 男
二松学舎大学附属柏中学校	
校 長	芝 田 周 一
副校長兼教頭	島 田 達 彦

(注)平成 30 年 5 月 1 日現在

(5) 事務組織の主要役職者

役 職	氏 名
二松学舎大学	
事務局長	小 町 邦 明
総務・人事部長	菅 原 義 博
企画・財務部長	西 畑 一 哉
大学改革推進部長	飛 田 正 太 郎
教学事務部長	西 園 隆 士
附属図書館事務部長	高 柳 幸 雄
キャリアセンター事務部長	高 林 由 美 子
附属高等学校	
事務長	大 淵 俊 明
附属柏中学・高等学校	
事務長	横 谷 孝 子

(注)平成 30 年 5 月 1 日現在

6. 最近の入学者数、在籍者数、納付金、教職員数の状況

(1) 入学者数

(単位:人)

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
大 学	大学院	16	14	18	21	30
	学部	713	697	730	728	783
附属高等学校		262	251	249	233	453
附属柏高等学校		344	358	314	291	372
附属柏中学校		61	43	43	55	75
計		1,396	1,363	1,354	1,328	1,713

(2) 在籍者数

(単位:人)

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
大 学	大学院	44	43	44	52	56
	学部	2,860	2,826	2,830	2,866	2,963
附属高等学校		739	745	755	721	924
附属柏高等学校		899	997	1,004	944	960
附属柏中学校		166	162	141	137	171
計		4,708	4,773	4,774	4,720	5,074

(3) 1人当たり学生生徒等納付金(平成 30 年度)

(単位:千円)

			入学金	授業料	施設費等	計
大 学	大学院	前期・修士	250	520	100	870
		後期・博士	250	520	70	840
	学部	280	746	250	1,276	
附属高等学校			220	372	208	800
附属柏高等学校			150	300	330	780
附属柏中学校			200	348	330	878

(4) 本務教職員数

(単位:人)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
大学教員	74	74	73	76	77
高等学校教員	74	76	81	83	83
中学校教員	13	15	14	15	15
事務職員	85	92	99	94	93
計	246	257	267	268	268

(注)各年度5月1日現在

教職員数は、①学生数に対応する基本的な教職員数の維持、②大学院の教育・研究のための適正人員の確保、③教育・研究支援体制の充実を視野に入れた適正人員の確保、④専任職員と補助職員の業務内容などの雇用制度等を基に決定している。

II. 事業の概要

1. 法人(理事会・評議員会など法人事項に係る管理運営)

(1) 新長期ビジョン「N'2030 Plan」による改革の推進

二松学舎創立135周年を機に定めた「長期ビジョン(N'2020 Plan)」の基本方針を引き継ぎ、私学を取り巻く環境の激変に対応するため、役員、教職員、学生・生徒、父母、取引先などステークホルダーの意見を基に2030年に向けた本法人の進むべき指針として「新長期ビジョン(N'2030 Plan)」を策定・公表した。平成30年度は、この「新長期ビジョン(N'2030 Plan)」の実行計画である「2018年度全学アクションプラン」に基づき、次のような改革課題について、全学一丸となった取り組みを行った。

◆平成30年度全学アクションプランの主な課題

- ①建学の精神と二松学舎憲章の普及
- ②大学・大学院の教育改革(21世紀型教育体制の構築、次世代型カリキュラムの検討、SD&FD活動の体系化、学生満足度の向上、グローバル化の推進、産学連携の推進、地域社会との連携、研究活動の推進、学生支援、学修成果の可視化への取り組み、教育研究施設・設備の整備、その他)
- ③附属高校の教育改革(自校教育の推進、難関大学への進学実績向上、生徒募集力の強化、生徒&保護者満足度の向上、教育環境の整備・拡充、その他)
- ④附属柏中学校・高等学校の教育改革(自校教育の推進、難関大学への進学実績向上、生徒募集力の強化、生徒&保護者満足度の向上、教育環境の整備・拡充、その他)
- ⑤財務、人材育成、評価、組織、広報、その他(KPI目標数値の設定、強固な財務基盤の維持・向上、SD計画の推進、働き方改革、ブランド力の向上、BCPプランの策定、卒業生ネットワークの強化、その他)

(2) 「二松学舎 KPI ダッシュボードシステム」の開発と運用

長期ビジョンの新たな進捗管理ツールとして「二松学舎 KPI ダッシュボードシステム」を開発し、運用を開始した。このシステムは、本学の運営に関係する様々な指標・データの内、特に重要と思われる指標・データ=KPI(Key Performance Indicator=重要業績評価指標の頭文字を取ったもの)を視覚的に一覧化、PC上で各指標の推移や現状を把握できるものとなっている。

(3) 施設設備の整備

大学では、九段1号館地下2階トイレ改修、学生・教職員の身分証明書ICカード化及び管理システムの改修、九段・柏両キャンパス図書館入館ゲートの入替え、九段・柏キャンパス間TV会議システムの拡張、九段1号館各教室AV設備・ICT機器の入替え、九段2号館ラーニング・コモンズ貸出用PCの増設及び4階(体育館)の畳の交換、九段図書館学習支援用PCの入替え、九段教員研究室パソコンリプレース、アキバラボ学生用PC・プリンターの設置、柏2号館のトイレ改修工事及びチラー冷温水ポンプユニット

交換、柏5号館空調設備更新工事等を実施した。

(4)被災学生への支援等

大学において、平成23年3月11日に発生した東日本大震災並びに福島第一原子力発電所事故に伴う被災特別奨学生に対する学納金の減免措置を引き続き実施した。

(5)イベント

①「漱石アンドロイド」プロジェクト

全国大学国語国文学会 自己紹介など披露(6月2日) 九段1号館中洲記念講堂

夏休み子ども研究会 『坊ちゃん』朗読など(8月4日) 柏キャンパス

シンポジウム「誰が漱石を甦らせる権利をもつのか？」(8月26日) 九段1号館中洲記念講堂

漱石アンドロイド演劇『手紙』上演

シンポジウム(講演、討議)など

附属高校70周年記念式典 祝辞(9月21日) 共立講堂

朝日教育会議2018 グローバル社会を生きるための「国語力」『こころ』朗読(10月13日) 九段1号館中洲記念講堂

創縁祭(本学学園祭) 漱石と落語(講話)(11月3日) 九段1号館中洲記念講堂

松山東高校同窓会 自己紹介、『坊ちゃん』、『夢十夜』朗読(12月15日) 九段1号館中洲記念講堂

韓国大学法人協議会 自己紹介、『坊ちゃん』朗読など(1月23日) 九段1号館

寄付者向け講演会 自己紹介、『こころ』朗読など(3月16日) 九段1号館中洲記念講堂

テレビ、新聞など報道・取材への対応

NHK「おはよう日本」 アンドロイドの人格権を考えるシンポジウム開催について報道(8月27日)

NHK-BSプレミアム「天国からのお客様」「文学論」講義(10月20日)

出版社への画像・動画提供

②『論語』の学校 - RONGO ACADEMIA - (10月20日)

会場:九段校舎1号館中洲記念講堂 参加者:220人

『論語』入門 文学部教授 牧角悦子

新潟を「世界一幸せな」まちに！ NSGグループ代表 (株)アルビレックス新潟 取締役会長 池田弘

近世近代の儒学史からみた、三島中洲の「義利合一論」と渋沢栄一の『論語と算盤』

文学部教授 町 泉寿郎

素読実践 顧問・名誉教授 石川忠久

③公開講座等

■柏キャンパス 生涯学習講座 (年間67講座 全10回)

○春セメスター(5月7日～7月14日) 34講座 全5回

漢詩の旅 シルクロードの詩 —長安から敦煌へ— 吉崎一衛

漢詩の旅 日本の詩—北海道から沖縄まで— 吉崎一衛

初期万葉の作品と作者—多角的な視点を通して— 青柳まや

唐代の名詩鑑賞Ⅰ 大地武雄

王維の名詩鑑賞Ⅰ 大地武雄

和歌を書こう—漢字かな交じり書の作品制作— 今川多佳子

漢文講読講座—秦の興亡— 録田 勲

初級英会話—LET'S ENJOY ENGLISH— 岡田リアン

日常生活と食事—栄養素を理解し、食生活を豊かに— 上原淳子

漢文講読講座—秦の興亡— 録田 勲

初級英会話—LET'S ENJOY ENGLISH— 岡田リアン

歌で学ぶ初級韓国語—リズムに乗せて覚えましょう— 秋 賢淑

シルクロードに悠久のロマンを馳せて—砂漠の大画廊敦煌・楼蘭の光彩— 山田勝久

日中の文化交流の歴史を語る—邪馬台国・遣隋使・遣唐使の活躍— 山田勝久

転換期の人間像—森鷗外の歴史小説を読む— 原 國人

- 書かない書道—拓本(鄭道昭)を読み解く— 伊藤忠綱
 男と女—王朝の恋『伊勢物語』— 原 國人
 初級中国語—中国語で自分の故郷を紹介してみよう— 武永尚子
 江戸に学ぶ I—江戸人の生き方— 松尾政司
 江戸に学ぶ II—江戸時代の旅— 松尾政司
 改称・20世紀シネマ『楽園館』—ザッツ・ハリウッド・ミュージカル— 白井雅彦
 故事成語を学ぶ—「あ」行から始まる言葉から— 録田 勲
 かな書き入門—初心者でも書ける仮名の世界— 杉浦妙子
 二松学舎サイエンスカフェ—不思議を分かりやすく科学する— 岩崎愛一
 戦後70年史を語る—時代の変容への眼差し— 山崎 哲
 隷書を学ぼう—曹全碑に学ぶ隷書の基本— 寺内 進
 ドイツ・ポピュラー音楽史入門 —クラシックではなく大衆音楽です。— 押野 洋
 謡曲(能)作品と日本文学 松田 存
 古文書入門—江戸の古文書を学ぼう— 寺内 進
 日本人の気質を探る—日本人に誇りと自信を与える提言— 松葉幸男
 芝居劇場(しばみごや)『桃源座』新開場!こけら落としは勘三郎 白井雅彦
 韓国社会と映像文化 田村紀之
 憲法への招待—日本国憲法の問題点について— 長谷川日出世
 フィットネス・トレーニング —運動で老化にブレーキ— 田中けい子
- 秋 Semester (9月18日~12月12日) 33 講座 全5回
- 漢詩の旅—中国の詩— 吉崎一衛
 漢詩の旅—日本の詩— 吉崎一衛
 初期万葉の作品と作者 II— 多角的な視点を通して— 青柳まや
 唐代の名詩鑑賞 II 大地武雄
 王維の名詩鑑賞 II 大地武雄
 漢字仮名交じり文を創作する—心に滲みる名文を作品にしよう— 今川多佳子
 漢文講読講座—漢・楚の争覇— 録田 勲
 初級英会話 II —LET'S ENJOY ENGLISH— 岡田リアン
 日常生活と食事—食の安全、環境に配慮した食生活— 上原淳子
 漢文講読講座—漢・楚の争覇— 録田 勲
 初級英会話 II —LET'S ENJOY ENGLISH— 岡田リアン
 歌で学ぶ初級韓国語 II—リズムに乗せて覚えましょう— 秋 賢淑
 楽しく学ぶシルクロード—遥かなる長安の都からローマまで— 山田勝久
 古代日本と韓(朝鮮)半島の交流を探る—弥生から古墳時代にかけての往来— 山田勝久
 転換期の人間像 II—森鷗外の歴史小説を読む— 原 國人
 漢詩を書く—様々な作品形式で漢詩を書こう!— 伊藤忠綱
 男と女 II—王朝の恋『伊勢物語』— 原 國人
 初級中国語—中国語で自分の趣味を紹介してみよう— 武永尚子
 江戸に学ぶ I—江戸人の生き方— 松尾 政司
 江戸に学ぶ II—江戸時代の旅— 松尾 政司
 20世紀シネマ『楽園館』—銀幕の妖精25年忌オードリー・ヘップバーン特集— 白井雅彦
 故事成語を学ぶ—「い」から始まる言葉から— 録田 勲
 かな書き入門 II—初心者でも書ける仮名の世界— 杉浦妙子
 二松学舎サイエンスカフェ II 岩崎愛一
 戦後70年史を語る II—時代の変容への眼差し— 山崎 哲
 隷書を学ぼう II—いろいろな隷書に触れよう— 寺内 進
 ドイツ・ポピュラー音楽入門 —クラシックではなくポピュラー音楽— 押野 洋

謡曲(能)作品と文学作品との関わりについて 松田 存
古文書入門Ⅱ—江戸の古文書を学ぼう— 寺内 進
日本人の気質を探るⅡ—日本人に誇りと自信を与える提言— 松葉幸男
芝居劇場(しばるごや)『桃源座』さよなら平成 御名残興行 白井雅彦
韓国社会と映像文化Ⅱ 田村紀之
フィットネス・トレーニングⅡ —運動で老化にブレーキ— 田中けい子

■九段キャンパス

「学んで歩こう江戸の街～体験ツアー付き～」

○文学関係(3月5日)

小説と映画のなかの江戸・東京 文学部教授 江藤 茂博

儒教と昌平坂学問所 文学部教授 町 泉寿郎

会場:九段1号館 201 教室

体験ツアー 神田明神、湯島聖堂 文学部教授 町 泉寿郎

○国際政治関係(3月20日)

現代における親子関係成立の法的問題—嫡出推定制度及び生殖補助医療の場合を中心に—
国際政治学部教授 土屋 茂

企業の社会的責任と内部統制システム 国際政治学部教授 高岸 直樹

会場:九段1号館402教室

体験ツアー 憲政記念館、東京家庭裁判所 国際政治学部教授 土屋 茂・高岸 直樹

2. 大学(学部・大学院)

(1)教育・研究の推進

①国際政治経済学部の改革(新学科の開設)

情報・外国語の優れた運用能力を基礎力として、課題を見極め解決する力、国際社会を生き抜く実践的な「創造的思考力」と社会の変化に対応して自らのキャリアを主体的に切り開く力を身に付けた人材を養成するため、国際政治経済学部新たに「国際経営学科」を設置した。

②東アジア学術総合研究所

本学の研究プロジェクト『近代日本の「知」の形成と漢学』が、【文部科学省】平成 27 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択され、SRF 事業として 4 年目となった。

〔期間〕平成 27 年度～平成 31 年度(5 年間)

〔内容〕日本の近代化が進行した 19 世紀～20 世紀前半、「漢学」(漢文による学び) が学術と教学に解体・再編される過程において、「漢文」による研究と教育を通して、近代日本がどのような「知」を形成し、それによってどのような人間形成・社会秩序形成をしたかを実証する。

平成 16 年度に採択された 21 世紀 COE プログラムは平成 21 年 3 月に 5 年間の研究支援期間の後、東アジア学術総合研究所日本漢学研究センターが引き続き COE の事業を推進しており、これまで、漢文文献資料の調査・収集とデータベース化、情報公開、国際シンポジウムや海外研究者の招聘による講演会・公開講座・講習会の開催など、広範で活発な研究教育活動を行い、人材育成にも力を注いでいる。また、ヨーロッパで日本漢文の講座を展開するほか、動画配信による講義も行っている。

<海外講座>

イギリス ケンブリッジ大学 エマニュエルカレッジ(8月6日～18日)

サマースクール 江戸の書き言葉

イタリア カ・フォスカリ大学 (2月6日～5月14日)

動画配信による講義

<シンポジウム>

二松学舎大学 SRF・日本内経医学会共催シンポジウム(4月30日)

内経学の系譜と漢学教育

会場:九段1号館中洲記念講堂
二松学舎大学 SRF・山田方谷の軌跡(～奇跡～)実行委員会共催第2回漢学者記念館会議(8月4日)
会場:九段1号館201教室、1103会議室

リール大学主催・二松学舎大学 SRF 共催明治維新150周年記念国際シンポジウム(10月10日～12日)
レオン・ドロニーの時代と日欧間の知の交流—漢籍、軍制・法制の制度知を中心に
会場:フランス リール大学

第3回東アジア日本研究者協議会(EACJS)国際学術大会(10月26日～28日)
会場:国際日本文化研究センター、京都リサーチパーク(京都)

東アジア学術総合研究所・国際政治経済学部共催公開シンポジウム(10月27日)
現代の政策を科学する III
会場:九段1号館202教室

二松学舎大学 SRF・浙江大学共催国際シンポジウム(12月7日)
近世東アジア地域における医師の国際移動や学術交流—医学関係の筆談記録を中心に—
会場:九段4号館4061教室

東アジア学術総合研究所・二松学舎大学 SRF・長崎歴史文化博物館主催
梅屋庄吉生誕150周年・明治150年記念シンポジウム(12月23日)
梅屋庄吉の時代とメディア—東アジア・長崎・メディア—
会場:長崎歴史文化博物館1階ホール

二松学舎大学 SRF・公益財団法人渋沢栄一記念財団主催シンポジウム(1月13日)
備中の学問と実業家の営みを考える
会場:倉敷市倉敷公民館第2会議室

二松学舎大学 SRF・台湾中央研究院共催シンポジウム(2月25日)
東亞文化意象的傳衍與流通
会場:台湾 中央研究院中國文哲研究所2楼会議室

■文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業『近代日本の「知」の形成と漢学』
<セミナー>

二松学舎大学 SRF・浙江工商大学東方語言文化学院・浙江工商大学東亜研究院共同開催
「日本漢学」上級セミナー(8月25日～9月1日)
会場:中国 浙江紹興文理学院

<テーブルスピーチ>

二松学舎大学 SRF 第7回テーブルスピーチ(5月17日)
会場:九段1号館1103会議室
二松学舎大学 SRF 第8回テーブルスピーチ(7月12日)
会場:九段1号館1103会議室

<ワークショップ>

二松学舎大学 SRF・台湾大学共催ワークショップ(7月21日)
東アジアにおける漢文文化の伝播と流通
会場:九段1号館201教室

二松学舎大学 SRF・香港城市大学共催国際ワークショップ(9月14日～16日)
日本漢文学の射程:その方法、達成と可能性
会場:香港城市大学

<公開講座>

講座「近代の漢詩・漢文」(5月19日・6月23日・9月29日・11月10日・12月8日・2月9日)
石川忠久顧問・佐藤保顧問・町泉寿郎教授・清水信子講師・川邊雄大講師
会場:九段4号館4061教室

■東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクト

<講演会>

東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクト・SRF 共催「講演と研究」(10月1日)

日中文化交流—その底流と近代—「東アジアの文化を探るⅠ」—

会場:九段1号館中洲記念講堂

東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクト・中国日語教学研究会共催シンポジウム(11月3日)

コミュニケーションから考える日中文化の比較—サブカルチャー領域におけるコンテンツを題材として

会場:寧波大学外国語学院 218 室

東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクト主催公開シンポジウム(3月12日)

南宋の士大夫・洪邁の学術

会場:九段1号館 201 教室

■陽明学研究センター

<シンポジウム>

陽明学研究センター主催公開シンポジウム(3月8日)

王龍溪研究の現在

会場:九段1号館 201 教室

■日本漢学研究センター

<公開講座>

演習講座

古文書解読講座、『古事談』の研究、『国語』の研究、漢文資料解読講座

前期 4月9日～7月28日

後期 9月13日～12月19日、1月7日～21日

<刊行物>

『三島中洲と近代 一其六一 一近代日本と岡山の漢学者たち』

『明治一五〇年 漢学の近代 一明治の精神に学ぶ』

二松学舎大学学術叢書『幽霊の歴史文化学』

『文学部のリアル、東アジアの人文学』

近代日本漢学資料叢書 3『加藤虎之亮『周禮經注疏音義校勘總説』』

「東アジア学術総合研究所集刊」第49集

「陽明学」第29号

「日本漢文学研究」第14号

「三島中洲研究」Vol.7

「雙松通説」Vol.23/24

③教員免許状更新講習の実施

教育職員免許法の改正に基づき、平成21年度より教員免許更新制度が導入された。これに伴い、本学卒業生教員をはじめ多くの教員を対象に免許状更新講習を開設し、本年度は8月6日～10日の日程で、最新の教育事情と子どもの発達・生活、教育課程の改善と学校運営、現代における生徒育成上の課題、現代文・古典・書道の教材と指導法などを主な講習内容として実施した。

④入学前教育・初年次教育の実施

新入生のモチベーションを高め、教育効果をより確かなものとするため、文学部・国際政治経済学部両学部においてAO入試・推薦入試の合格者に対し「入学前教育」を、入学後の新入生に対し学部ごとの「初年次教育」の実施や講演会などを開催した。

国際政治経済学部では入学時のプレースメント・テスト、英語習熟度クラス分けテストを実施し、両学部ともに、出口のレベルアップを目指すべく、初年次から「キャリア教育」の授業を開講し、正課「キャリア教育」と「就職支援講座」との連携を図っている。

⑤シンポジウム・講演会・展示会等の開催

本年度もシンポジウムや各種講演会などを開催し、本学の教育研究成果を学外へ広くアピールすると共に学内の活性化を図っている。大学資料展示室では二松学舎関係者の軸・書簡や近現代作家の初版本・草稿類など文学界にとって貴重な資料を収集し、年間を通して各種企画展を開催している。

■大学資料展示室企画展等

○九段キャンパス

<展示>

二松學舎新収コレクション展(4月23日～6月2日)

三島中洲と近代 其六 ー明治150年ー(7月12日～8月10日)

二松學舎ゆかりの明治の文化人 ー明治150年ー(9月28日～10月27日)

明治の精神に学ぶ ー明治150年ー(12月1日～1月10日)

橘家四代の学問 守部・冬照・道守・純一 ー明治150年ー(2月4日～3月16日)

<講演会>

近代日本における二松学舎の特質(12月1日) 名誉教授 神立春樹

会場:九段校舎1号館201教室

○柏キャンパス

<展示>

学祖三島中洲(4月9日～5月31日)

創立者 三島中洲の裁判官時代(10月15日～11月30日)

詠んだ詩、歌った人:水木かおるの世界(12月7日～2月28日)

<講演会>(10月26日)

現代の親子関係の成立問題 ー生殖補助医療(人工授精・体外受精)により生まれた子の法律上の親(父・母)は誰が良いかー 国際政治経済学部教授 土屋茂

会場:柏校舎1号館205教室

●柏市内4大学図書館見学バスツアー(11月17日)

(麗澤大学図書館、東京大学柏図書館、二松学舎大学附属図書館(柏)、開智国際大学図書館)

●知的書評合戦 ビブリオバトル(11月10日)

会場:柏市立図書館

■二松学舎大学卒業神奈川教員の会(8月18日)

会場:九段1号館807教室 参加者:22人

■二松学舎大学卒業埼玉県教員の会(8月20日)

会場:九段1号館807教室 参加者:20人

■二松学舎大学卒業千葉県教員の会 設立総会(8月24日)

会場:九段1号館807教室 参加者:29人

■二松学舎大学卒業茨城県教員の会 国語(古典)講習会・情報交換会(8月28日)

会場:ホテルビュー水戸 参加者:講習会61人、情報交換会15人

■二松学舎大学教育研究大会(10月21日)

講演:これからの時代の国語科教育の方向性 文部科学省初等中等教育局視学官 大滝 一登

分科会:「小学校 国語」、「中学校 国語」、「高等学校 国語」

会場:九段校舎1号館中洲記念講、401教室、403教室、507教室 参加者:236人

■文学部シンポジウム(2月23日)

東の落語・西の落語

会場:九段1号館中洲記念講堂

対談「落語の魅力と課題」

「饅頭こわい」(上方版) 林家染左

ディスカッション「落語:江戸と上方」

「八五郎出世」 桂文治

■全国学生・生徒文芸コンクールの開催

入賞者発表:11月3日 表彰式:11月23日

漢詩部門

学生(大学生の部) 最優秀賞1件 優秀賞2件 佳作2件 入選3件

生徒(高校生・中学生の部) 優秀賞 2 件 佳作 3 件 入選 5 件
書道部門

学生(大学生の部) 最優秀賞 1 件 優秀賞 2 件 佳作 3 件 入選 5 件
生徒(高校生の部) 最優秀賞 1 件 優秀賞 2 件 佳作 3 件 入選 30 件
生徒(中学生の部) 最優秀賞 1 件 優秀賞 2 件 佳作 3 件 入選 30 件
生徒(小学生の部) 最優秀賞 1 件 優秀賞 2 件 佳作 3 件 入選 30 件
書評部門 最優秀賞 1 件 優秀賞 2 件 佳作 3 件 入選 1 件
学内感想文部門 最優秀賞 1 件 優秀賞 2 件 佳作 3 件 入選 5 件

■ホームカミングデー(11月3日)

- (1) 公開講座 文学部教授 磯水絵、文学部教授 山崎正伸
- (2) 卒業生作品展 書・篆刻・写真・絵画等の展示(11月2日～3日)
- (3) 漱石アンドロイド・落語研究会コラボレーションイベント
- (4) スタンプラリー
- (5) 創立140周年記念展示・映像上映会ほか

■卒業生名刺交換会(異業種交流会)(2月23日)

会場:ホテルグランドパレス 白樺の間 参加:95人(卒業生56人、学内関係者39人)

■FD(ファカルティ・ディベロップメント)・SD(スタッフ・ディベロップメント)

新人研修のための「大学職員力」育成セミナー(6月1日)

大学職員サポートセンター

会場:TKPカンファレンスセンター市ヶ谷 カンファレンスルーム3E

大学職員力判定試験 基礎力向上コース(7月20日・21日)

大学職員サポートセンター

会場:芝浦工業大学 芝浦キャンパス307教室

大妻女子大学とのSD協定に基づく合同事務職員研修会

苦情・クレーム対応研修(9月11日)

会場:九段1号館201教室 参加者:本学30人、大妻女子大学32人

教育と経営に関する講演会(8月6日)

これからの大学改革の方向性とN'2030Planの進め方 理事長 水戸英則

SDについて SD委員長 常任理事 五十嵐清

会場:九段校舎507教室 参加者:102人

管理職対象評価者研修(ディスカッション)

①N'2030Planと教職協働について

②教職員の働き方について

③学生サポートについて

会場:九段1号館803・804・805・806教室 参加者:23人

課長補佐対象評価者

課長補佐向けリーダー・フォロワーシップ研修

会場:九段1号館1103教室 参加者:11人

FD講演会(2月27日)

大学教育学会第40回大会「AI時代を生きるための教養教育」参加報告

文学部教授 塩沢 一平

国際政治経済学部教授 佐藤 晋

出席や課題のことで相談されるとき会話について

学生相談室 奥野 光

会場:九段1号館401教室 参加者:45人

⑥図書館の充実等

図書館利用者が図書館の資料を参照しながらレポートや論文を作成できるよう、九段校舎図書館本館の

ほか、2号館にラーニング・コモンズを設置している。グループワークエリアや、豊富なPC機器を利用した情報検索エリア、多面プロジェクターや電子黒板が整備されたプレゼンテーションルームなどが配置され図書館とも行き来が可能となっており、利便性の高い学習環境を整備している。また、本学図書館では所蔵している貴重資料のデジタル化を進めており、これまでにデジタル化した『二十一代集』『土佐日記』などの和本や『周易本義通釋』『融堂書解』などの漢籍について、デジタル資料を公開している。

⑦大学の授業に関するアンケートの実施

大学の自己点検・評価活動の一環として、授業における学生の学習成果を教員が確認し授業の改善、学習の動機付け・習慣付け・学習意欲の向上および活用を探る一助とするため、「学生による授業アンケート」を実施している。学生の授業に対する意識調査・分析により、サービス向上や大学全体の今後の教育改善に役立てる。

⑧学術研究支援等の充実

本学卒業生教員の教育実践支援、教職志望の学生への更なる支援と併せて教育実践に関する総合的な研究調査及び研修等を行うことで広く教育界に貢献することを目的に「教職支援センター」を設置している。同センターでは、本学の卒業教員とのネットワーク強化、教職に関する様々な情報収集と提供、教員採用試験合格講座の開講をはじめ、論作文の添削指導、模擬面接・個別進路相談などにより、教員志望学生の支援を実施している。また、東アジア学術総合研究所では、シンポジウムやワークショップの開催、共同研究プロジェクトの推進および研究成果報告書の刊行を支援している。

⑨地域連携

地域連携及び地域貢献活動の推進・強化を目的として、柏キャンパスに二松学舎大学地域連携室を設置している。当年度は、アクションプランの課題である地域連携、防災対策強化を推進するため、柏キャンパス近隣町会による柏キャンパス見学会を開催し、避難場所(大学グラウンド)・避難施設(大学体育館)の見学、避難ルート確認、防災施設・備蓄物資の説明などを行った。

10月28日 参加者:100人

■柏・我孫子地区小学生対象勉強会

夏休みこども研究会

8月4日

郷土の歴史を調べようー平将門のことー 文学部教授 磯水絵

漱石アンドロイド講演「坊っちゃん」・記念撮影

会場:柏キャンパス1号館501教室 参加者:190人

8月5日

武士が活躍し始めた、その頃のお話。 文学部教授 磯水絵

夏目漱石と二松学舎 附属柏高校教諭 萩原 篤夫

会場:柏キャンパス1号館501教室 参加者:105人

論語で学ぶ「英語の基礎力」「漢字の基礎力」(11月17日)

会場:柏キャンパス1号館501教室 参加者:小学4~6年生・中学生・保護者192人

冬休み寺子屋道場 書き初め勉強会(1月5日)

会場:柏校舎体育館 参加者:柏市・我孫子市の小学生58人

■千代田区小学生対象勉強会

夏休みこどもゼミナール(8月21日)

絵で読む物語 大妻女子大学教授 小井土守敏

この字、読めるかな? 法政大学教授 小秋元 段

郷土の歴史を調べよう 文学部教授磯 水絵

会場:九段キャンパス1号館中洲記念講堂 参加者:20人

■「柏市の成り立ち」柏市教育委員会との共催による公開講座(3月19日)

会場:柏キャンパス1号館501教室

講演 「手賀沼は残った(史料にみる柏の歴史)」 柏市学芸員 高野博夫

「八代将軍吉宗と小金枚」 元国際政治経済学部講師 松尾政司

■千代田区地域との連携

千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムに関する包括協定
平成30年4月1日、大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、法政大学との間で、千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムに関する協定を締結した。経済社会の健全な発展の推進力となることを目指し、構成大学、千代田区（関係団体等を含む。）及び地域産業界等が、近接する立地等を生かした連携を図ることにより、学生の学びや社会の人材養成に対する要請など多様なニーズに適切に対応することを目的とする。

⑩産学連携

平成30年7月30日、株式会社クロス・マーケティンググループと産学連携推進の一環として事業創造ならびにビッグデータ解析分野における連携協定のため、協定書を締結した。相互の立場を尊重し対等平等の立場から、産学連携による事業創造、人材育成、学術研究交流をはじめとする協力事業を行い、主にデータサイエンス分野における学術研究及び教育の発展、並びに大学と実業界との相互交流を促進することを目的とする。

<刊行物>

- 「二松学舎大学附属図書館 季報」第 102 号～第 104 号 二松学舎大学附属図書館
- 「教職支援センターだより」第 15 号 二松学舎大学教職支援センター
- 「二松学舎大学国際政経論集」第 25 号 二松学舎大学国際政治経済学部
- 「二松学舎大学論集」第 62 号 二松学舎大学文学部
- 「国際交流」第 41 号 二松学舎大学国際交流センター
- 「二松学舎新聞」第 75 号～第 77 号 学校法人二松学舎
- 「三島中洲と近代 其六 -明治150年-」 二松学舎大学附属図書館
- 「學」第 50 号～第 52 号 学校法人二松学舎
- 『アンドロイド基本原則』 日刊工業新聞社
- 「漱石アンドロイド」プロジェクト 2018 年度共同研究報告書 二松学舎大学・大阪大学・ATR
- 「二松」第 33 集 二松学舎大学大学院文学研究科
- 「二松詩文」第 41 巻第 3 号～第 42 巻第 2 号 二松詩文会
- 「国際政経」第 24 号 二松学舎大学国際政経学会
- 「人文論叢」第 101 輯・第 102 輯 二松学舎大学人文学会
- 「水木かおる記念文庫だより」第 10 号 二松学舎大学附属図書館(柏) 等

(2)学生支援

①施設の拡充

学生サービス並びに施設の利便性の向上のため、昨年度取得した九段 5 号館のうち、3 フロアーを改修整備し教室および研究室として利用を開始した。将来的に全てのテナントが退出した後、校舎を新築する予定としており、教育研究環境の更なる充実を見込んでいる。

②学生ポータルサービス・ポートフォリオ

本学では、学外から従業や学生生活に関する情報にアクセスが可能な学生ポータルサイトを開設している。また、学生が自らの目標の達成度を確認し意欲的・継続的に学習に取り組むことができるよう、ポートフォリオシステムを構築している。

③奨学金制度の拡充

学生生徒の就学意欲の維持、退学者の減少や学生生徒募集のためにも、奨学金制度の拡充が重要であり、給付および貸与奨学金制度を設けており、奨学生(給付・貸与)、特待生(中洲賞)、二松学舎サービス株式会社特待生、入試奨学生、外国人特別奨学生、郭火盛奨学生、外国人研究奨励生、松苓会奨学生等奨学生度を拡充している。

④PROG テストの実施

当年度から「PROG テスト」(Progress Report On Generic skills)を導入し、学生の「大卒者として社会で求められる汎用的な能力・態度・志向」、いわゆるジェネリックスキルがどの程度身に付いているかを客観的

に測定し、自分の強みや弱みを知り、自己認知(メタ認知)を高める工夫も行っている。

⑤就職・進学支援等

キャリアセンターでは、4年間のキャリア教育プログラムを構築し、1年次から正課授業との連携およびキャリアカウンセラーによる相談の実施により学生のサポート・フォローを行っている。履歴書、ES作成や企業訪問等就職活動全般にわたるガイドブック「キャリアガイド」を作成、3年次生全員に配付し、就職活動への支援ツールとして活用している。自己発見(職業適性)検査をはじめ、公務員試験対策講座の開講、合同企業説明会(創縁会)、企業研究セミナーや業界セミナー、インターンシップ研修、ニュース検定対策や「キャリアデザイン講座」「社長弟子入りプロジェクト」「サービス介助士講座」などの各種講座を実施した。また、本学と地方自治体との間で、若者人材の育成・確保に向け、学生のUIJターン就職活動の支援について連携・協力を推進し、求人や事業活動の周知、学生向け説明会開催、インターンシップ支援等、地元就職・定着に係る連携を強化する。

教職支援センターでは、国語科教員養成特別授業や採用試験対策、教育実習生に対する現職教員による特別講演会の実施など、教員採用試験合格者の増員を図るための各種事業を実施した。また、教育研究大会をはじめOB教員の教育実践等の支援や教育情報等の資料収集および広報誌「教育支援センターだより」の発行などを行った。

大学院への進学については、キャリアセンターや入試課、指導教員が連携し、入試情報や資料の提供をするとともに、進路に関する相談を行っている。また、専門学校等への進学については、キャリアセンターで資料の提供や相談を行っている。

更に、「基礎ゼミナール共通テキスト」を作成し、初年次教育である基礎ゼミの段階から、自らのライフデザイン、キャリアデザインを考える場を設けることとした。

⑥国際交流

国際交流センターでは、海外協定校への派遣留学生および海外協定校からの交換留学生に対する就学支援、留学相談および外国語試験に関する情報提供および説明会の開催、その他国際交流イベント(研修旅行、留学生スピーチコンテスト等)を実施している。当年度は、キッコーマン醤油工場見学会、松戸歴史館および戸定邸見学、外国人留学生と海外留学した日本人学生による意見発表会および異文化交流催事(軽食および世界のお菓子紹介など)の文化交流イベントを開催した。

<短期海外語学研修>

夏期 英国・ケンブリッジ大学ホマートンカレッジ(8月12日～9月2日)

春期 豪州・サザンクロス大学(2月11日から3月10日)

アイルランド・ダブリンシティ大学(2月16日～3月10日)

韓国・高麗大学校(2月18日～3月8日)

中国・浙江工商大学(2月24日～3月18日)

<日本語・日本学特別プログラム等>

日本語学科を有する中国浙江省の大学(嘉興学院、南湖学院、浙江越秀外国語学院、浙江外国語学院、浙江農林大学、河南大学、浙江工商大学)から1年間の交換留学生41人、秋 Semester 24人(鄭州大学)を受け入れ、本学柏校舎やアキバラボを有効利用して日本語能力や日本文化に関する知識の修得を目指すそれぞれのプログラムを実施した。

本学ではグローバル化に向けた取り組みとして、本学学生の海外留学機会を増やすため協定校拡充を図っており、新たな海外協定校として、オーストラリアのサザンクロス大学、カナダのフレイザーバレー大学と台湾の文藻外語大学、中国の魯東大学、浙江大學寧波理工學院、浙江財経大学との交流協定を締結した。今後、各大学との交流協定に基づき、積極的に国際交流プログラムを推進していく。

⑦海外協定校への相互訪問等

協定校との関係をより堅固なものとするため、教職員の定期的な相互派遣を行っている。本年度は中国・北京大学歴史学系から党宝海副教授が1月14日～18日の日程で本学に来訪され、本学からは3月20日～24日の日程で松本健太郎文学部准教授が北京大学歴史学系を訪問し、講演会や教員交流が行われた。また、2月28日～3月2日には、中国・浙江工商大学を訪問し、ダブル・ディグリープログラムに関する打ち合わせ、短期海外語学研修の視察を行った。

⑧地区別父母懇談会

大学の現況、学習の状況、学生生活の状況、就職状況等についての説明や個別相談を行っている。平成 30 年度は、愛知県名古屋市、山口県山口市、群馬県高崎市、長野県長野市、岩手県盛岡市、東京都千代田区、高知県高知市、福岡県福岡市(開催日程順)で開催した。

(3) 広報・学生募集対策

大学の概要・学部の各専攻・キャリアサポート・教職支援等の紹介をホームページよりデジタルパンフレット、映像配信、SNSによる情報発信などを行っている。少子化が進む中で、文学部・国際政治経済学部とも学生募集広報活動を見直し、学生募集広報戦略検討会議において、法人と大学とが一体となって広報戦略を検討し両学部の新学科設置に係る広報はもとより、本学の知名度向上やブランディングにも寄与するよう、140 周年記念を冠した広報を積極的に行った。また、本学公式キャラクターとして「ねこ松」を作成し、オープンキャンパス等で披露して来場者に好評を博しているほか、ねこ松のツイッターアカウントを作成し、情報発信を行っている。

多方面から入学者選抜実施方法(入試種別・科目・日程等)を検討し、地方会場および関東地区会場で大学説明会や入学試験を実施した。また、関東地区の志願者獲得の精度を上げるべく、東京、千葉、埼玉、神奈川、茨城の各地区別に学生募集特別委員を配置し学生募集対策の強化を図っている。さらに、本学卒業生教員との連携や地方からの志願者確保、オープンキャンパスや学校見学会の開催、一般入学試験のWeb出願で併願割引制度の導入、特待生制度・奨学金制度の拡充等により学生募集対策の強化を行った。

3. 附属高等学校

(1) アクションプランに基づく改革

アクションプランに基づき、①附属高等学校の「ビジョン」浸透 ②「人間(ひと)作り」・人格教育 ③愛校心の育成 ④国際化への対応 ⑤地域・社会との連携 ⑥教育の実践・充実等について検討し改革を推進している。

①新入生は入学後の宿泊オリエンテーションにて、建学の精神や校訓について理解を深める。また、毎月の校長講話において、建学の精神や校訓、人の生き方等に関係する話をしている。

②『論語』教育による人格形成を行っているほか、毎週生活目標としての「週訓」を決め、自己指導力を高める意識をもって学校生活を送っている。

③始業式や終業式での校歌斉唱、野球部の甲子園出場の応援、学校周辺のフィールドワーク、九段の歴史・文化を知るための「九段学」講座など母校への帰属意識を高める機会をもった。

④英語検定受験、オーストラリアへの海外語学研修、附属柏中高校と合同で実施している台湾語学研修などにより国際化への取り組みを行っている。

⑤九段坂・内堀通り・千鳥ヶ淵緑道等の通学路清掃ボランティア、九段2丁目町会の秋の祭り参加、本校周辺の歴史的建造物や国の施設等を体験学習するフィールドワークプログラムなどを行った。

⑥通常授業の他に本校教員による特別講習、予備校講師による特別講習「学び舎」、タブレット学習の導入、専任教員の研究授業の充実など授業力の向上を図った。

(2) 「集中体育」の実施

土曜日に学年ごとに「集中体育」を実施し、柏キャンパスの人工芝グラウンド、体育施設を利用した体育の授業を実施している。

(3) 教育学習環境の整備

パソコン教室コンピュータシステムの更新等特別教室の改修整備、普通教室 AV 機器の更新、短焦点プロジェクターの増設、理科用機器備品の購入、校舎屋上の人工芝化工事を実施したほか、柏野球場周辺施設の修理その他経年劣化による改修整備を実施した。また、生徒へのタブレット導入により、ICT活用能力を高め、学習理解度や学習意欲の向上を図った。

(4) 広報・生徒募集対策

ホームページでの学校紹介、学校案内パンフレット及び学校紹介 DVD のほか、ほぼ毎日更新される公式ブログ「学舎の窓ー校長室だよりー」による部活動や学園祭、各種学校イベントの様子など詳細な情報発

信を行っている。また、入学時特待生制度を新設、Web 出願システムの導入、志願者増加および定着化のため中学・塾等訪問スタッフの配置や生徒・保護者対象説明会の拡充、中学校教員・塾対象の学校説明会の実施など効果的な広報活動により生徒募集対策を行った。

(5) スクールカウンセラーの配置

生徒の悩みや保護者の相談に対応するため、専門的知識を有するスクールカウンセラーを校内に配置し、教育相談や学園生活のサポートなどメンタルケアの充実を図っている。精神的に不安定に陥りやすい高校生の時期を健やかに過ごせるよう、臨床心理士のカウンセラーが対応している。

(6) チューター制度の導入

進路指導の充実と生徒の進路意識の向上を目的に、チューター制度(課外活動講師)を継続して実施している。現役の大学生を講師に迎え、週5回、放課後に勉強の仕方や大学の様子など生徒の相談に応じるなど、教員とは一味違った形で進路に向け生徒をサポートしている。

(7) 学校評価委員会の開催

「学校評価」及び同校の経営・運営に資するため、有識者及び近隣地域住民より附属高等学校に対する意見を聴取し、学校評価委員会を開催した。

(8) 外部講師による補助講習の実施

生徒の学力および進学実績の向上と教育活動の活性化を図るため、通年(放課後)で特別講習「学舎(まなびや)」を設置し、3年生の特進・理系コース等を対象に、国語・数学・英語の受験対策講習を実施するとともに、1年生は1学期に中学教育補完講習、2年生は2学期から実力伸長講習を実施した。

(9) 創立70周年記念式典・祝賀会の開催

- ・式典コンセプト：創立70周年の節目において、今後の更なる発展を期すとともに現在の附属高校生の輝きを発信する(式典サブタイトル「Start from here」)
- ・期日 9月21日(金) 於：共立講堂、ホテルグランドパレス 出席者1,051名

(10) 校外学習等

- ・オリエンテーション：千葉県館山市(4月12日～14日)1年生
- ・歌舞伎教室：日本振袖始：国立劇場(7月11日)1年生
- ・芸術鑑賞(修学旅行事前指導)：ミュージカルひめゆり(7月12日)2年生
- ・芸術鑑賞：オペラ 魔笛(6月15日)3年生
- ・語学研修：オーストラリア・クイーンズランド(8月16日～8月28日)参加23名 1・2年生
台湾(8月16日～22日)参加6名 1・2年生
- ・勉強合宿：千葉県野田瀬戸クリアビューホテル(8月22日～25日)1・2年生
- ・修学旅行：沖縄県(10月30日～11月2日)2年生
- ・雪国体験(スキー教室)：長野県上田市菅平高原(1月23日～25日)1年生
- ・フィールドワーク：千代田区九段周辺(3月18日～20日)1年生
- ・特別授業、高大連携授業：(3月18日～20日)2年生
- ・英語合宿：千葉県野田市瀬戸クリアビューホテル(3月28日～3月31日)2年生

< 刊行物 >

「二松だより」第117号～第119号 附属高等学校二松だより編集委員会
『文芸二松』第34号 附属高等学校文芸二松編集委員会
『松螢』第63号 附属高等学校生徒会
「研究紀要」第17集 附属高等学校研究紀要編集委員会
『平成30年度卒業記念文集』附属高等学校第69回卒業生
選集『私の論語』(平成30年度版) 附属高等学校国語科
第100回全国高校野球選手権記念大会出場記念誌
「2018 二松の熱い夏」二松学舎大学附属高等学校

4. 附属柏中学校・高等学校

(1) 附属柏中学校・高等学校の改革

アクションプランに基づき、①附属柏中学校・高等学校の「ビジョン」浸透 ②「人間(ひと)作り」・人格教育 ③愛校心の育成 ④国際化への対応 ⑤地域との連携 ⑥教育の実践・充実等について検討し改革を推進している。

①「自問自答」をキーワードとし校訓である「仁愛・正義・誠実」と関連させて建学の精神について理解を深める。

②『論語』教育による人格形成のほか、中学校では「沼の教室」「都市の教室」「雪の教室」「古都の教室」などの体験学習、高校ではオリエンテーション合宿や芸術鑑賞会(歌舞伎教室)、海外研修などにより、「思考力」「判断力」「表現力」を養成し建学の理念の実現を目指す。

③卒業生の芥川賞受賞や、大学創立 140 周年記念事業の一環で制作した漱石アンドロイドによる授業の受講など国語の二松學舎を特に強く生徒にアピールし愛校心の育成に取り組んだ。

④台湾の桃園市私立新興高級中学(高校)やオーストラリアのクリーブランドハイスクールと相互交流をより深めるため交流協定を締結し、短期語学研修を実施した。さらにカナダ、フィリピン(セブ島)などでの語学研修を中・高の学年やコースおよび希望者によって行った。

⑤中学校では、「沼の教室」により手賀沼周辺地域施設を活用し、「田んぼの教室」では高校同窓会と連携し、手賀沼のそばに田圃を借り、地域在住の OB の指導により田植え・稲刈りを実施した。

また、高校では福祉施設や幼稚園でのボランティア活動、駅前でのユニセフ募金活動、近隣地域の定期的な清掃活動を行った。

⑥教員のアクティブ・ラーニング研修を実施した他、「アクティブ・ラーニング推進委員会」を中心としてアクティブ・ラーニングの更なる推進に取り組んだ。また、高校のグローバルコースにおいて英字新聞制作を通じた英語力育成プログラムを実施した。設備面では、電子黒板やプロジェクターの設置など、教室等の IT 環境を整備した。

(2)カリキュラムの充実

本学の建学の理念のもと、附属柏高等学校との中・高を通じた教育の充実と人材の養成するため、新カリキュラムにより教育体系の更なる充実を図っている。また、一人ひとりの学力を確かなものとするため中学校は、少人数教育と目標進路に合わせ個性を尊重した「グローバルコース」「特選コース」「選抜コース」を設置し、柏高校では、学力の向上と人間力の向上を目指し、目標実現に向けたコース別授業を実施している。

(3)教育・学習環境の整備

柏高校では、北校舎の空調設備交換工事のほか、理科室の設備整備、西校舎の階段・廊下補修工事、黒板貼り替え、特別教室のプロジェクター設置などを実施した。中学校では、電子黒板設置、南校舎の壁補修塗装工事などを実施し、教育環境を整備した。

(4)広報・生徒募集対策

受験生向けの学校案内パンフレットのリニューアルやホームページでの動画による学校紹介、保護者・受験生対象の学校見学会のほか SNS による情報発信、授業公開や体験授業を行っている。入試広報部を中心に、広報活動、中学・塾等訪問スタッフの配置など募集対策を実施した。

新入生全員がタブレット PC を持ち、自問自答、アクティブ・ラーニング、グローバル人材育成の推進等により、中学校ではハイレベルのグローバルコースへのチャレンジ層が増え、入学者が増加した。

千葉県臨時定員増は当初 2017(H29)年度までの計画であったが、本校の位置する第三学区(柏市・野田市・流山市・我孫子市・鎌ヶ谷市)は、中学校卒業者が引き続き増加する見通しで、2025 年度まで「期限付臨時定員増」を継続することとなり、これに対応すべく定員の変更申請を行い、2025 年度まで臨時定員増(定員 249→280 名)が認可された。

(5)生徒支援

入学から卒業までの生徒支援を行うため、父母の会や同窓会との連携を強化し、意見を聴取して学校運営に反映させている。また、生徒の悩みや保護者の相談に対応するため、専門的知識を有するスクールカウンセラーを校内に配置し、教育相談や学園生活のサポートなどメンタルケアを行っている。さらに、ベネッセが提供する生徒の学力と学習習慣をチェックする「スタディーサポート」や模試のデータなどを活用して学習指導や進路指導を行なうプログラムである「ファインシステム」を使った担任の面談を増やし、タブレットで情報を共有するなどして効果を上げている。

(6) 授業評価等アンケートの実施

自己点検・評価活動の一環として、また、学校を取り巻く環境の変化に対する組織的な取り組みとして、生徒による授業評価アンケート、卒業生と保護者の満足度調査を実施し、それに基づく教育の改善を図っている。

(7) 地域・社会との連携

地域貢献として、ネイティブによる小学生対象の英語教室をひと月に2回実施した。また、大学と連携し、教育委員会の後援を得て実施した「大学教授と奈良絵本を読む」や「英語の基礎力」「漢字の基礎力」といった小中学生向けの講座も好評であった。施設面では、OBと大学生が連携した夏休み小学生向け作文教室や書道教室などへの教室貸し出し、また、体育館は柏市の避難・給水施設となっており、地域の避難訓練や集会などに参加し、連携を深めている。

(8) 両附属高校間の連携強化

両校の管理職、部長、主任、若手教員による研修会・懇談会を実施した。また、両校間での教員人事交流制度を整備している。教育プログラムとしては海外語学研修の共同企画、大学への内部推薦試験の実施があり、文化祭では生徒会や吹奏楽部の相互訪問などを行っている。施設面では柏キャンパスの人工芝グラウンド、体育館の相互利用(附属高校集中体育など)があり、さらに連携強化を図る。

(9) 校外学習等

- ・沼の教室:「北千葉導水ビジターセンター」千葉県柏市(6月7日)中学1年生
「鳥の博物館」千葉県我孫子市(6月7日)中学1年生
- ・都市の教室:「国際子ども図書館」東京都台東区、「昭和館」東京都千代田区
(6月7日)中学3年生
「東京国立博物館・浅草散策」東京都台東区(6月7日)中学2年生
「日本科学未来館」「パナソニックセンター東京」東京都江東区(11月16日)中学1年生
- ・校外オリエンテーション:千葉県九十九里(4月12日～14日)高校1年生
- ・手賀沼クリーンウォーク(緑道清掃活動)(4月13日)中学1年生
- ・田んぼの教室:千葉県柏市(5月12日田植え～9月8日稲刈り)中学1・2年生
- ・歌舞伎教室:「毛抜」国立劇場(6月7日)高校2年生
- ・JICA地球ひろば訪問:東京都新宿区(6月23日)中学グローバルコース
- ・芸術鑑賞:キャッツ 四季劇場(11月10日)高校1年生
- ・修学旅行:台湾(11月6日～10日)高校2年生
シンガポール・マレーシア(11月14日～18日)中学3年生
- ・海外研修:カナダ バンクーバー(7月8日～22日)中学3年生グローバルコース
オーストラリア クイーンズランド(8月16日～28日)中学・高校
台湾(8月16日～22日)高校1・3年生
フィリピン セブ島(3月10日～4月6日)中学2年生グローバルコース
- ・サマーセミナー:東京都中央区晴海(7月27日～30日)高校2年生
- ・古都の教室:京都府・奈良県(11月14日～17日)中学2年生
- ・雪の教室(スキー教室):福島県会津高原(2月7日～10日)中学1年生
- ・スプリングセミナー:千葉県野田市(3月24日～27日)中学2年生、高校2年生
- ・国内語学研修:福島県岩瀬郡天栄村 British Hills(3月31日～4月2日)中学グローバルコース

< 刊行物 >

- 「双松」第45号 附属柏高等学校双松編集委員会
- 「修己治人」第8号 附属柏中学校・高等学校
- 研究論文集「自問自答」第4号 附属柏中学校
- 「双松だより」第89号～第92号 附属柏中学校・高等学校父母の会

Ⅲ. 財務の概要

1. 施設設備の整備

大学では九段1号館地下2階トイレ改修、学生・教職員の身分証明書ICカード化及び管理システムの改修、九段・柏両キャンパス図書館入館ゲートの入替え、九段・柏キャンパス間TV会議システムの拡張、九段1号館各教室AV設備・ICT機器の入替え、九段2号館ラーニング・コモンズ貸出用PCの増設及び4階(体育館)の畳の交換、九段図書館学習支援用PCの入替え、九段教員研究室パソコンリプレース、アキバラボ学生用PC・プリンターの設置、柏2号館のトイレ改修工事及びチラー冷温水ポンプユニット交換、柏5号館空調設備更新工事等を実施した。附属高等学校では生徒数増加に伴う教室の改修、パソコン教室ICT機器更新、特別教室(アクティブ・ラーニング)の設置、理科実験機器類ほか教育研究用機器備品の整備、教員用印刷機の新規導入等を実施し、附属柏中学・高等学校では北校舎空調設備更新工事、高校理科室の実験器具の整備、中学校のICT環境整備、校務用サーバの更新、特別教室プロジェクターの設置、屋内消火栓ポンプユニットの交換等を行った。

2. 財務改革の推進

(1) 奨学金制度の充実と第3号基本金の増額

大学・附属高校・附属柏高校・附属柏中学校の学校別に奨学金制度を設けている。奨学金制度の充実のため、当年度奨学基金として受け入れた寄付金は第3号基本金に組み入れ、奨学基金を毎年度増額することとしている。本年度は、東日本大震災並びに福島第一原子力発電所事故に伴う被災特別奨学生に対する学納金の減免、経済的困窮学生に対する奨学金、留学生への研究奨励金、交換留学生に対する武永尚子奨学金の給付、中洲賞・特待生への奨学金給付を実施した。

(2) 恒常的な募金活動

本法人では二松学舎教育研究振興資金の募金活動を恒常的に行っている。平成30年度は約8千300万円のご寄付をいただき、前年度からの繰越金と合わせて校舎整備、被災学生および経済的困窮学生への支援金(授業料等の減免)の一部として活用し、また、奨学金の基金として第3号基本金に組み入れたほか、残りの資金は平成31年度に繰り越すこととした。

(3) 事業会社の事業展開

本法人出資の事業会社である二松学舎サービス(株)は本法人の業務の効率化や経費削減等に寄与している。設立13年目を迎え順調に事業を展開しており、同社からは3,500万円の寄付があった。

(4) 格付けの取得

格付機関(株)格付投資情報センター(R&I社)による法人の発行体格付評価を受け、本年度も引き続き「A-」(シングルAマイナス)の格付けを維持した。

(5) 資金の効率的運用

資金の運用に当たっては、資金運用規程及びリスク管理体制に基づき慎重な運用を行い、運用収入を確保した。

3. 資金収支計算書(別紙1)

4. 活動区分資金収支計算書(別紙2)

5. 事業活動収支計算書(別紙3)

6. 貸借対照表(別紙4)

7. 財産目録(別紙5)

8. 主な財務比率(別紙6)

資金収支計算書

平成30年4月1日から
平成31年3月31日まで

(単位:円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	4,391,902,000	4,404,434,150	△ 12,532,150
手数料収入	137,189,000	148,713,904	△ 11,524,904
寄付金収入	98,525,000	110,136,941	△ 11,611,941
補助金収入	1,007,200,000	1,007,200,195	△ 195
国庫補助金収入	292,173,000	292,173,333	△ 333
地方公共団体補助金収入	715,027,000	715,026,862	138
資産売却収入	1,000,000,000	528,602,904	471,397,096
付随事業・収益事業収入	19,951,000	19,951,000	0
受取利息・配当金収入	230,619,000	223,146,355	7,472,645
雑収入	300,386,000	300,062,418	323,582
借入金等収入	1,000,000	1,000,000	0
前受金収入	892,611,000	765,444,128	127,166,872
その他の収入	555,794,000	862,605,575	△ 306,811,575
資金収入調整勘定	△ 1,230,523,000	△ 1,238,034,433	7,511,433
前年度繰越支払資金	2,699,501,000	2,699,500,550	450
収入の部合計	10,104,155,000	9,832,763,687	271,391,313
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	3,175,705,000	3,177,912,621	△ 2,207,621
教育研究経費支出	1,439,791,000	1,376,553,158	63,237,842
管理経費支出	506,135,000	474,954,825	31,180,175
借入金等利息支出	18,792,000	18,791,749	251
借入金等返済支出	305,800,000	305,800,000	0
施設関係支出	155,895,000	123,286,047	32,608,953
設備関係支出	289,997,000	283,469,860	6,527,140
資産運用支出	1,355,736,000	1,298,927,514	56,808,486
その他の支出	369,718,000	371,940,003	△ 2,222,003
予備費	(0)		0
資金支出調整勘定	△ 543,243,000	△ 591,626,003	48,383,003
翌年度繰越支払資金	3,029,829,000	2,992,753,913	37,075,087
支出の部合計	10,104,155,000	9,832,763,687	271,391,313

活動区分資金収支計算書

平成30年4月1日から
平成31年3月31日まで

(単位：円)

		科 目	金 額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	4,404,434,150
		手数料収入	148,713,904
		特別寄付金収入	102,136,941
		経常費等補助金収入	984,973,362
		付随事業収入	10,451,000
		雑収入	297,061,378
		教育活動資金収入計	5,947,770,735
	支出	人件費支出	3,177,912,621
		教育研究経費支出	1,376,553,158
		管理経費支出	470,470,783
		教育活動資金支出計	5,024,936,562
		差引	922,834,173
		調整勘定等	△ 185,445,233
	教育活動資金収支差額	737,388,940	
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	8,000,000
		施設設備補助金収入	22,226,833
		施設設備等活動資金収入計	30,226,833
	支出	施設関係支出	123,286,047
		設備関係支出	283,469,860
		施設設備等活動資金支出計	406,755,907
		差引	△ 376,529,074
		調整勘定等	125,422,653
		施設整備等活動資金収支差額	△ 251,106,421
	小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		
その他の活動による資金収支	収入	借入金等収入	1,000,000
		有価証券売却収入	528,602,904
		特定資産取崩収入	361,328,187
		上記以外の収入	311,173,296
		小計	1,202,104,387
		受取利息・配当金収入	223,146,355
		上記以外の収入	12,501,040
		その他の活動資金収入計	1,437,751,782
		支出	借入金等返済支出
	有価証券購入支出		918,856,501
	特定資産繰入支出		380,071,013
	上記以外の支出		2,888,824
	小計		1,607,616,338
	借入金等利息支出		18,791,749
	上記以外の支出		4,484,042
	その他の活動資金支出計		1,630,892,129
		差引	△ 193,140,347
	調整勘定等	111,191	
	その他の活動資金収支差額	△ 193,029,156	
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)			293,253,363
前年度繰越支払資金			2,699,500,550
翌年度繰越支払資金			2,992,753,913

事業活動収支計算書

平成30年4月1日から
平成31年3月31日まで

(単位:円)

教育活動 収入	事業活動 収入	科目	予算	決算	差異
		学生生徒等納付金	4,391,902,000	4,404,434,150	△ 12,532,150
		手数料	137,189,000	148,713,904	△ 11,524,904
		寄付金	98,525,000	103,226,908	△ 4,701,908
		経常費等補助金	984,974,000	984,973,362	638
		付随事業収入	10,451,000	10,451,000	0
		雑収入	300,386,000	297,061,378	3,324,622
	教育活動収入計	5,923,427,000	5,948,860,702	△ 25,433,702	
	事業活動 支出	科目	予算	決算	差異
		人件費	3,152,467,000	3,173,621,712	△ 21,154,712
		教育研究経費	2,099,260,000	1,994,879,886	104,380,114
		管理経費	535,492,000	498,243,849	37,248,151
		徴収不能額等	7,420,000	7,421,000	△ 1,000
		教育活動支出計	5,794,639,000	5,674,166,447	120,472,553
教育活動収支差額		128,788,000	274,694,255	△ 145,906,255	
教育活動 外収入	収入	科目	予算	決算	差異
		受取利息・配当金	230,619,000	223,146,355	7,472,645
		その他の教育活動外収入	9,500,000	9,500,000	0
		教育活動外収入計	240,119,000	232,646,355	7,472,645
	支出	科目	予算	決算	差異
		借入金等利息	18,792,000	18,791,749	251
		その他の教育活動外支出	0	4,484,042	△ 4,484,042
教育活動外支出計	18,792,000	23,275,791	△ 4,483,791		
教育活動外収支差額	221,327,000	209,370,564	11,956,436		
経常収支差額	350,115,000	484,064,819	△ 133,949,819		
特別 収入	収入	科目	予算	決算	差異
		資産売却差額	32,163,000	32,162,888	112
		その他の特別収入	38,101,000	49,491,332	△ 11,390,332
		特別収入計	70,264,000	81,654,220	△ 11,390,220
	支出	科目	予算	決算	差異
		資産処分差額	5,773,000	14,030,315	△ 8,257,315
		その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	5,773,000	14,030,315	△ 8,257,315		
特別収支差額	64,491,000	67,623,905	△ 3,132,905		
[予備費]	(0)		0		
基本金組入前当年度収支差額	414,606,000	551,688,724	△ 137,082,724		
基本金組入額合計	△ 550,688,000	△ 421,383,439	△ 129,304,561		
当年度収支差額	△ 136,082,000	130,305,285	△ 266,387,285		
前年度繰越収支差額	△ 2,963,368,000	△ 2,963,368,428	428		
翌年度繰越収支差額	△ 3,099,450,000	△ 2,833,063,143	△ 266,386,857		
(参考)					
事業活動収入計	6,233,810,000	6,263,161,277	△ 29,351,277		
事業活動支出計	5,819,204,000	5,711,472,553	107,731,447		

貸借対照表

平成31年3月31日

(単位:円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	23,316,868,863	23,400,720,482	△ 83,851,619
有形固定資産	18,436,172,909	18,678,636,851	△ 242,463,942
土地	6,170,752,610	6,170,752,610	0
建物	9,522,789,909	9,854,470,593	△ 331,680,684
図書	2,159,784,787	2,129,680,074	30,104,713
その他の有形固定資産	582,845,603	523,733,574	59,112,029
特定資産	1,576,268,724	1,557,525,898	18,742,826
第3号基本金引当資産	470,000,000	465,249,000	4,751,000
退職給与引当特定資産	976,280,123	980,571,032	△ 4,290,909
その他の特定資産	129,988,601	111,705,866	18,282,735
その他の固定資産	3,304,427,230	3,164,557,733	139,869,497
有価証券	3,076,996,770	2,673,159,059	403,837,711
その他	227,430,460	491,398,674	△ 263,968,214
流動資産	6,311,769,542	5,930,144,390	381,625,152
現金預金	2,992,753,913	2,699,500,550	293,253,363
有価証券	3,029,878,085	3,014,792,144	15,085,941
その他の流動資産	289,137,544	215,851,696	73,285,848
資産の部合計	29,628,638,405	29,330,864,872	297,773,533
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	2,730,430,338	3,014,750,101	△ 284,319,763
長期借入金	1,646,000,000	2,007,250,000	△ 361,250,000
退職給与引当金	976,280,123	980,571,032	△ 4,290,909
長期未払金	108,150,215	26,929,069	81,221,146
流動負債	1,922,861,356	1,892,456,784	30,404,572
短期借入金	362,000,000	305,550,000	56,450,000
未払金	489,346,923	352,678,315	136,668,608
前受金	765,490,628	970,447,960	△ 204,957,332
預り金	306,023,805	263,780,509	42,243,296
負債の部合計	4,653,291,694	4,907,206,885	△ 253,915,191
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	27,808,409,854	27,387,026,415	421,383,439
第1号基本金	26,971,409,854	26,554,777,415	416,632,439
第3号基本金	470,000,000	465,249,000	4,751,000
第4号基本金	367,000,000	367,000,000	0
繰越収支差額	△ 2,833,064,143	△ 2,963,368,428	130,304,285
翌年度繰越収支差額	△ 2,833,064,143	△ 2,963,368,428	130,304,285
純資産の部合計	24,975,345,711	24,423,657,987	551,687,724
負債及び純資産の部合計	29,628,637,405	29,330,864,872	297,772,533

財 産 目 録

平成31年3月31日

I 資産総額	29,628,638,405 円
内 基本財産	18,453,741,524 円
運用財産	11,174,896,881 円
II 負債総額	4,653,291,694 円
III 正味財産	24,975,346,711 円

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	
土地	125,511.77 m ² 6,170,752,610 円
建物	59,056.12 m ² 9,522,789,909 円
構築物	185 件 187,964,885 円
図書	406,831 冊 2,159,784,787 円
教具・校具・備品	22,171 点 393,230,715 円
その他	19,218,618 円
2 運用財産	
現金預金	3,105,953,913 円
特定資産	1,576,268,724 円
有価証券	6,106,874,855 円
未収入金	260,211,973 円
貸付金	4,750,000 円
差入保証金	35,066,640 円
収益事業元入金	55,268,095 円
前払金	24,835,910 円
その他	5,666,771 円
資産総額	29,628,638,405 円
負債額	
1 固定負債	
長期借入金	1,646,000,000 円
退職給与引当金	976,280,123 円
長期未払金	108,150,215 円
2 流動負債	
短期借入金	362,000,000 円
前受金	765,490,628 円
未払金	489,346,923 円
預り金	306,023,805 円
負債総額	4,653,291,694 円
正味財産(資産総額－負債総額)	24,975,346,711 円

財務比率

1. 貸借対照表関係比率 (%)				2. 事業活動収支計算表関係比率 (%)					
財務比率	計算式(×100)	学校法人二松学舎		全国平均	財務比率	計算式(×100)	学校法人二松学舎		全国平均
		平成29年度	平成30年度	平成29年度			平成29年度	平成30年度	平成29年度
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	79.8	78.7	86.6	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	52.8	51.3	53.8
有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	63.7	62.2	60.7	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	74.5	72.1	71.9
特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	5.4	5.3	21.7	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	34.2	32.3	33.3
流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	20.2	21.3	13.4	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	9.8	8.1	8.8
固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債+純資産}}$	10.3	9.2	6.8	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.4	0.3	0.2
流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債+純資産}}$	6.5	6.5	5.4	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	5.4	8.8	4.9
内部留保資産比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{総負債}}{\text{総資産}}$	18.5	20.7	24.8	基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	103.3	97.8	106.5
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	1.3	1.4	1.9	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	70.9	71.3	74.7
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債+純資産}}$	83.3	84.3	87.8	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	2.3	2.0	2.3
繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債+純資産}}$	-9.5	-9.6	-14.5	経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	2.3	1.7	1.4
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	95.8	93.4	98.7	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	16.3	16.1	12.5
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産+固定負債}}$	85.3	84.2	91.6	経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	16.3	15.9	12.2
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	313.4	328.2	248.3	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	8.4	6.7	10.8
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	16.7	15.7	12.2	減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	11.9	11.3	11.9
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	20.1	18.6	13.9	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常支出}}$	2.7	7.8	3.9
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	278.2	391.0	354.2	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入}}$	-0.6	4.6	2.4
退職給与引当特定資産保有率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	100.0	100.0	69.9					
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	92.6	93.1	97.3	3. 活動区分資金収支計算書関係比率 (%)				
減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額(図書を除く)}}{\text{減価償却資産取得額(図書を除く)}}$	49.3	51.1	50.5	財務比率	計算式(×100)	学校法人二松学舎	全国平均	
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	89.6	89.8	78.6			平成29年度	平成30年度	平成29年度
					教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	12.0	12.4	14.1

注)「全国平均」は日本私立学校振興・共済事業団の集計による医歯系を除く509大学法人の平均を示す。

監査報告書

令和1年5月17日

学校法人 二松学舎
理事会 御中
評議員会 御中

学校法人 二松学舎

監事 溝田 泰夫 

監事 根本 義尚 

私たちは、学校法人二松学舎の監事として、私立学校法第37条第3項に基づいて、学校法人二松学舎の平成30年度（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）における計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表並びに附属明細表）及び学校法人の業務執行状況について監査を行いました。

監査の結果、私たちは上記の計算書類は学校法人会計基準（文部科学省令第15号、平成25年4月22日公布）に準拠しており、学校法人二松学舎の平成31年3月31日現在の財産状態及び同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めました。また、学校法人の業務執行状況に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する事実のないことを確認いたしました。

以上